

## 緊急人道支援学会 企画セッション 人道主義と人道支援

### ■ 要旨

緊急人道支援学会の核である人道支援は、人道性、公平性、独立性、中立性を原則に行われる支援である。完結に表現すれば、人道支援は非政治的な行動とすることができるだろう。この人道支援の原則は、1965年に赤十字国際委員会(ICRC)、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)、各国の赤十字社・赤新月社、ジュネーブ諸条約締約国政府の代表が集まる国際会議である赤十字・赤新月国際会議で定められたものである。現在では、国際連合や日本を含むドナー政府もこの人道支援原則を採用している。

それ以降、人道支援を取り巻く環境や、しばしば人道危機と呼ばれる支援が必要となる原因が変化してきている。また、本日の研究大会各セッションで議論されているように、革新的な技術の発展により人道支援の方法も目覚ましい変化を遂げてきた。

そのため、「そもそも人道支援って何なの？」ということのを再考し続けるセッションが本学会には必要なのではという考えより、第1回に引き続き本セッションを企画したしだいである。

### ■ 略歴および発表内容

#### 【ファシリテーター】

堀江正伸 / ほりえまさのぶ 「人道主義と人道支援—人道的開発の可能性」

青山学院大学地球社会共生学部 教授

大学卒業後、建設会社にて主に東南アジアにおける ODA 案件を担当後、国連世界食糧計画(WFP)に入所。WFP では、インドネシア・ティモール島、スーダン・ダルフール、フィリピン・ミンダナオ島、イエメン、アフガニスタンにて勤務。その間、紛争地や自然災害被災地にてプログラム担当、資金調達官、広報官として人道支援に従事。WFP 在職中の 2017 年、早稲田大学社会科学研究所より博士学位を取得し、2018 年より大学職員となる。2022 年 4 月より現職。著書『人道支援は誰のためか—スーダン・ダルフールの国内避難民社会に見る人道支援政策と実践の交差—』では、知らず知らずのうちに、人道支援を通じて国際政治や国際的な支援の潮流などに影響を受ける人道支援受益者の日常を、3 年間のフィールド・ワークをもとに描いた。

#### 【発表者】

武藤亜子 / むとうあこ 「人道主義と人間の安全保障」

独立行政法人国際協力機構(JICA)緒方貞子平和開発研究所 専任研究員／

立教大学大学院社会デザイン研究科社会デザイン学専攻 特任教授

JICA の実務経験を踏まえ、安定的かつ持続的な平和に資する国際協力の在り方やその阻害要因、また人間の安全保障の概念や実践について研究。JICA 緒方研究所の定期刊行物『人間の安全保障レポート』編集委員。近著(和文)に武藤亜子、槌谷恒孝「適応的平和構築と国連システ

ム:シリア紛争とイエメン紛争を事例に』『国連研究』第 25 号 (2024 年 6 月)がある。

藤井麻衣子 / ふじいまいこ 「Civil Space と人道原則(案)」

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(SCJ) 海外事業部部長

2013 年 4 月セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン入局。これまでフィリピン・マニラでの路上で暮らす子どもたちの保護活動、シリアにおける国内避難民の子どもたちの保護、ウガンダでの難民支援等のために現地駐在。そのほか、ミャンマー、アフガニスタン、レバノン、モザンビーク等多くの緊急人道支援事業の管理監督を行う。教育学修士(国際開発教育)。

## ■ セッションの流れ

セッションの時間 15:00 - 16:30

15:00 - 15:05 セッションの趣旨説明

15:05 - 15:25 発表1:堀江 正伸 人道主義と人道支援—人道的開発の可能性

15:25 - 15:45 発表2:武藤 亜子 人道主義と人間の安全保障

15:45 - 16:05 発表3:藤井 麻衣子 Civil Spage と人道原則

16:05 - 16:25 質疑応答、意見交換

16:25 - 16:30 まとめ